

月次レポート

第11号

2009年10月13日作成

ユニオンファンド

追加型株式投資信託／ファンド オブ ファンズ
(分配金再投資専用)

～ マークのなかに託した私たちの想い ～

4世代(おじいちゃん・おばあちゃん、熟年世代、勤労世代、お子さんやお孫さん)をあしらいました。
ハンドinハンドで親近感や繋がり・絆を深め、
幸せの輪をひろげようという想いを込めています。



Union Asset Management Inc.
ユニオン投信株式会社

「ユニオンファンド」の「月次レポート」(2009年10月13日作成)をお届けします。

運用状況のご報告

ユニオンファンド概況

	2009年9月30日現在	基準価額と純資産額の推移																		
基準価額	12,567円	<table border="1"><caption>基準価額と純資産額の推移 (概算値)</caption><thead><tr><th>日付</th><th>基準価額 (円)</th><th>純資産 (百万円)</th></tr></thead><tbody><tr><td>08.10.20</td><td>10,000</td><td>100</td></tr><tr><td>08.11.28</td><td>9,000</td><td>120</td></tr><tr><td>08.12.30</td><td>9,500</td><td>140</td></tr><tr><td>09.6.30</td><td>12,000</td><td>420</td></tr><tr><td>09.9.30</td><td>12,567</td><td>480</td></tr></tbody></table>	日付	基準価額 (円)	純資産 (百万円)	08.10.20	10,000	100	08.11.28	9,000	120	08.12.30	9,500	140	09.6.30	12,000	420	09.9.30	12,567	480
日付	基準価額 (円)		純資産 (百万円)																	
08.10.20	10,000	100																		
08.11.28	9,000	120																		
08.12.30	9,500	140																		
09.6.30	12,000	420																		
09.9.30	12,567	480																		
純資産額	4億8,007万円																			

期間別騰落率(%)

1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
-0.86%	+10.77%	+34.42%	-	+25.67%

組入れファンドの内訳 (組入比率は9/30付け)

ファンド名	主な地域	組入比率	目標組入比率	目標比
さわかみF	日本	17%	18%	-1%
キャピタルF	欧米	24%	25%	-1%
ハリスF	欧米	17%	17%	±0%
コムジエスF	エマージング	36%	40%	-4%
キャッシュ	-	6%	-	6%

※現在は段階的に「目標組入比率」に向けたポートフォリオ構築途上にあります。

ファンドマネージャー コメント

投資環境と見通し

5年後の世界経済は?

ユニオンファンドでは「20年」「30年」という長期間に亘る資産形成(毎月積立)を前提とした投資戦略を考えています。

そして今後「20年後」「30年後」の世界経済については概ね「4%」程度の成長を想定しています。
(・・・世界成長「4%」≒人口増要因「1%」+技術革新・資本要因「1%」+物価上昇要因「2%」)

一方IMF(国際通貨基金)では毎年、「5年後の世界経済予測」を発表しています。

今年4月の予測では今後5年間の世界経済成長を「約6%」としています。

ユニオンファンドの想定より高めに表れていますが、これは今回の「世界経済危機」による落ち込みの反動(低い水準からのスタート)などが要因と思われます。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

IMF「6%」成長の内容

IMF予測の概要は次のようなものです。

- ①世界経済は今後5年間毎年約300兆円拡大する（・・・世界の生産・所得・消費が毎年約300兆円増える）。
そのうち、先進国が約120兆円、新興国が約180兆円、の拡大となり世界経済の牽引役が新興国に代わる。
世界経済規模（シェア）では先進国が6%減少して63%に、新興国が6%増加して37%となる。
- ②人口は先進国が低迷し、新興国が引き続き増加する。
（5年間の人口増減・・・日本：約100万人減、独：約50万人減、米：約160万人増、中国：約1億人増、インド：約0.8億人増、ブラジル：約0.1億人増）
- ③しかし、新興国の一人当たり所得は先進国に比べまだ低い。
（5年後の一人当たり所得・・・日本：420万円、独：400万円、米：520万円、中国：60万円、インド：13万円、ブラジル：80万円）〈1ドル100円換算、概算値〉

新興国高成長の背景

IMFが予測している今後5年間の成長とその要因について、次のように分解してみました。

世界・・・「6%」成長≒人口増要因「1%」+技術革新・資本要因「3%」+物価上昇要因「2%」
先進国・・・「3%」成長≒人口増要因「0%」+技術革新・資本要因「2%」+物価上昇要因「1%」
新興国・・・「10%」成長≒人口増要因「2%」+技術革新・資本要因「4%」+物価上昇要因「4%」

新興国高成長の背景は次のように考えられます。

- ・1989年の「ベルリンの壁」崩壊を境にグローバル化がスタートし、先進国資本が「投資機会」「安価な労働力」を求めて東側諸国・発展途上国に向かい始めました。
この資本流入をきっかけに、「低成長」「貧困」に苦しんでいた新興国は成長への道を歩み始めました。
- ・即ち、新興国は「安価な労働力」を武器に先進国から数多くの「仕事」をシフトさせ、その結果「雇用」が増え、「所得」が増え、多数の豊かな中間所得層が出現しました。彼らの旺盛な購買力は衣・食・住・サービスへの「需要」急増につながり、経済が急拡大しました。
- ・しかし新興国の一人当たり所得は先進国に比べまだ著しく低い水準です。「豊かさへの更なる欲求」が今後も巨大な「需要」を生み続けると考えられます。
- ・また高度成長下での膨大な人口増は膨大な「需要」増につながります。
- ・このような「需要」増は、インフラ・設備投資拡大を通じて技術革新・生産性増大をもたらします。
- ・またこのような強い「需要」は良い意味での物価上昇を引き起こし、経済を活性化させます。

「安価な労働力」のもとに「世界の工場」化した新興国にとって、「まだ成熟化していない」（＝欲しいものが沢山ある）こと、「まだ人口が増える」（＝新規の需要が続く）ことが、「需要」を高め高成長を持続する要因と言えます。

ユニオンファンドの新興国株式投資

長期投資においては「期待収益率が高い」と思われる資産に積極投資することが肝要です。

ユニオンファンドでは上記のような新興国の潜在的成長性を踏まえ、「期待収益率の高い新興国株式」への積極投資を行っています。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ ユニオンファンドは、

①「株式」に投資する ②「グローバル」に投資する ③インデックスでなく「アクティブ」に投資する、
ファンドの中から実績を挙げってきた4つのファンドに投資しています(ファンド・オブ・ファンズ)。

■ 地域別「目標」投資配分としては、世界の株式市場シェアに比べて「日本」と「エマージング」のウエイトを高めとし、「欧米」を低めとしています。

「日本」 : 低成長市場だが身近な精通した市場
「エマージング」: 伸び盛りの高成長市場
「欧米」 : 成熟した低成長市場

■ 世界の株式市場は、8月以降「揉み合い・横ばい」の展開で終始しました。

国別・地域別の動きは次の通りです。

日本… 民主党の「家計優先」政策に対する消化難、円高進行などから弱含みで推移
上海… 割高感・急騰の反動などから下落
欧米・その他エマージング… 強い景気指標などを背景に「ジリ高」

【今後の見通し】

- ・懸念材料としては、「自動車買換補助制度」が米欧で8月に終了したことから、9月以降の景気指標(10月以降発表分)が弱含みになる可能性があります。
- ・一方、それ以外の大型財政支出はこれまで通り世界規模で継続されます。
- ・また、「消費伸び悩み」で「物価」が超安定状態にあることから、世界的金融緩和が続きます。
- ・そして、ドル金利低下に伴う「ドル・キャリートレード」などによりドル資金が世界中に供給されています。株・債券・商品・不動産などの資産市場にドルが流入し、潤沢な流動性からM&Aの活況も期待されます。従って、多少の上下はあっても株価の「ジリ高」基調が維持されるものと考えます。

■ 長期投資の観点からは“まだ割安な水準にある”と判断し、引き続き「強気」スタンスを継続しています。9月中の組入れ比率は91~94%で推移し、平均92%、月末は94%となっています。

■ 基準価額は8月に12,000円台を固めた後、9月は概ね横ばいで終始しました。

9月の具体的な推移としては、初旬に安値12,219円(9/4)を付けたあと、下旬に高値12,888円(9/24)まで上昇し、月末は12,567円となりました。

■ 今後の運用方針

● 目標投資比率

長期投資の観点からは、まだ「投資妙味のあるタイミング」と認識しています。

しかし、短期的には当面の目標ゾーンに入り、強弱感が対立してきています。また、企業の決算発表・業績見通しなども控えており、上下にぶれる展開が予想されます。

従って、「目標投資比率」を「85~100%」に拡大し(先月は「90%~100%」)、柔軟に対応していきます。

● 地域別目標投資比率

現在の「地域別目標投資比率」を維持します。

…日本:18%、欧米:42%、エマージング:40%

● ファンド選定

当面、現在の4つのファンドに投資していきます。

● ファンド別目標組入比率

現在の「ファンド別目標組入比率」を維持します。

…さわかみF:約18%、キャピタルF:約25%、ハリスF:約17%、コムジェストF:約40%

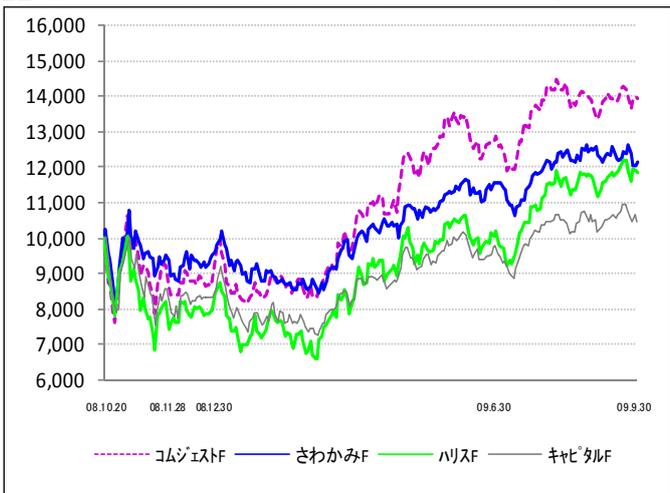
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆ 当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

「ユニオンファンド概況」補足コメント

■ 図1 組入ファンドの基準価額推移(2008. 10. 20=10,000)



>> 図1 基準価額推移

4ファンドとも3月以降順調に上昇してきたが、ここへきてやや足踏み。
9月1ヶ月騰落率は次の通り。
…「コムジエストF:▲0.8%」、「さわかみF:▲3.9%」、
「ハリスF:1.2%」、「キャピタルF:0.0%」。

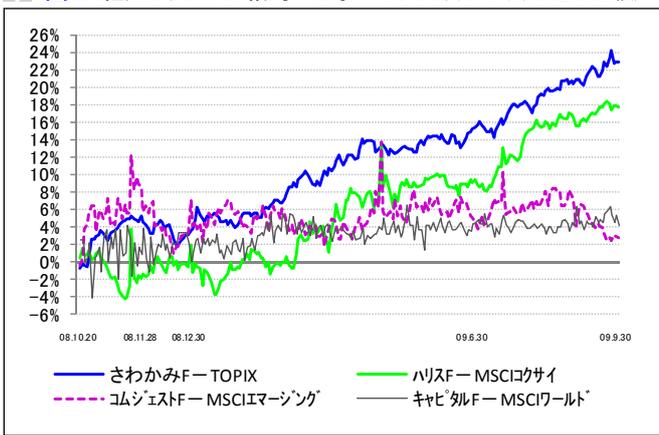
>> 図2 相対パフォーマンス

4ファンドともインデックスを上回るパフォーマンス。
「さわかみF」…輸出関連株の上昇などからインデックスを設定来で約23%凌駕。
「ハリスF」…金融株・割安株の反発から約18%凌駕。
「キャピタルF」…安定的に約5%凌駕。
「コムジエストF」…銘柄選択効果などから設定来で約3%凌駕。しかし9月単月では約4%劣後。高値警戒感から安定株にシフトしたため。

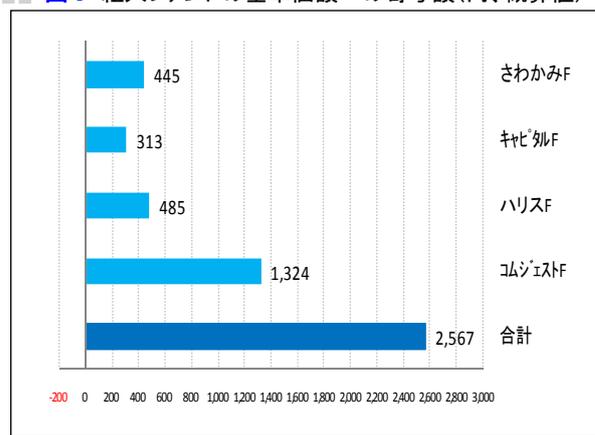
>> 図3 寄与額

9月末の基準価額が12,567円となっているため、2,567円の評価益に。その内訳を4ファンドに分解すると第3図の通り。4ファンドともプラス寄与。なかでも「コムジエストF」の貢献が大きい。

■ 図2 組入ファンドの相対パフォーマンス(インデックスとの比較)



■ 図3 組入ファンドの基準価額への寄与額(円、概算値)



>> 図4 時価総額シェア・目標投資比率

時価総額シェア…「エマージング」:08年10月を底に上昇。09年8月は上海を中心に下落。その後回復。「欧米」:低下基調。「日本」:横ばい基調。

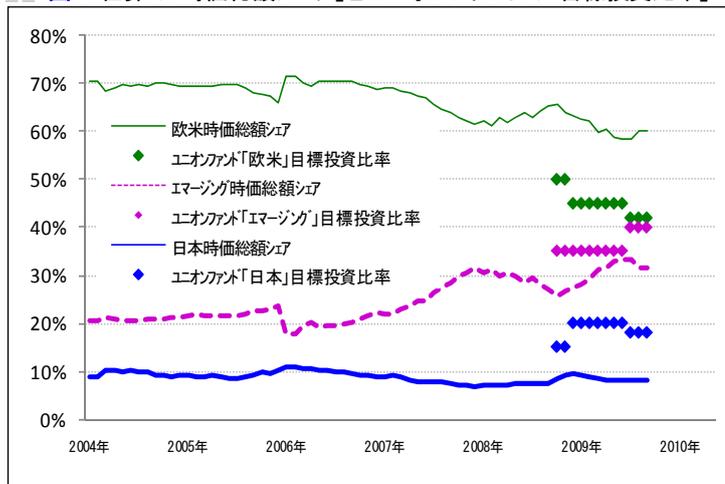
「地域別目標投資比率」

- 日本 :18%(シェア比+10%)
- 欧米 :42%(シェア比▲17%)
- エマージング:40%(シェア比+7%)



運用部長 (ファンドマネージャー)
坂爪 久男

■ 図4 世界の「時価総額シェア」とユニオンファンドの「目標投資比率」



(出所)「時価総額シェア」:ユニオン投信株式会社調べ

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

組入れ4ファンドの状況

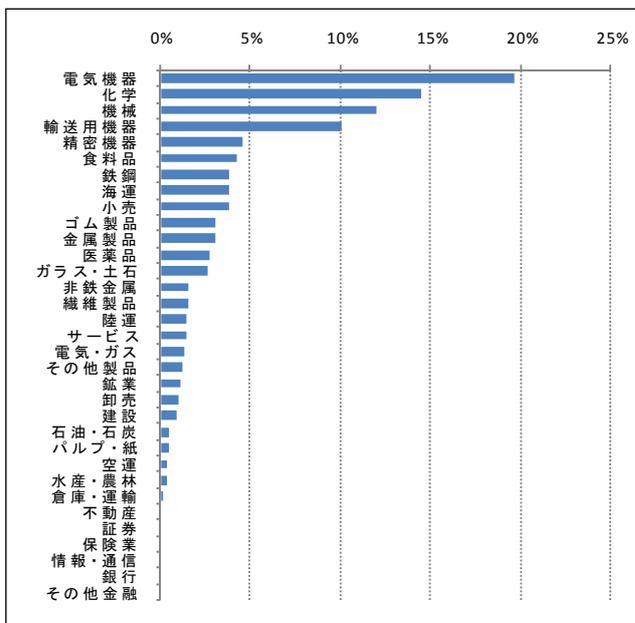
■ さわかみF (さわかみファンド)

■ 株式組入上位 10 銘柄等

2009年9月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	商船三井	3.6%	日本	海運	タンカー・LNG 船で世界一
2	花王	3.0%	日本	化学	トイレット紙首位
3	ブリヂストン	2.9%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
4	コマツ	2.8%	日本	機械	建設機械でキャタピラーと双壁
5	SUMCO	2.7%	日本	金属製品	半導体用シリコンウエハー大手
6	パナソニック	2.5%	日本	電気機器	総合家電首位
7	信越化学	2.2%	日本	化学	塩ビ・シリコンウエハー世界大手
8	トヨタ自動車	2.1%	日本	輸送用機器	自動車世界トップ
9	武田薬品	2.0%	日本	医薬品	世界的医薬品大手
10	セブン&アイ	2.0%	日本	小売	日本最大の小売グループ
上位 10 銘柄		25.9%			
その他 177 銘柄		70.1%			
キャッシュ		4.0%			

■ 業種別構成比



業種：東証 33 業種

構成比：現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

>> ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆組入銘柄数は約 190。最近 1 年半で約 120 銘柄を圧縮。
業種のメリハリを効かせることで個性あるポートフォリオを作り上げている。
- ◆具体的には、以下の特徴がある。
 - (1) 電気機器、化学、機械、輸送用機器、精密、鉄鋼など「ものづくり」企業の比率大。
 - (2) 食料品、小売などの「生活関連」企業の比率大。
 - (3) 金融、通信、不動産、倉庫運輸などの「内需型」企業の比率小。
- ◆中小型銘柄から大型・国際優良株へのシフトを進めている。
環境・太陽光関連、中国関連などが組入上位に。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ キャピタルF (CIF グローバル・エクイティ・ファンドクラスA)

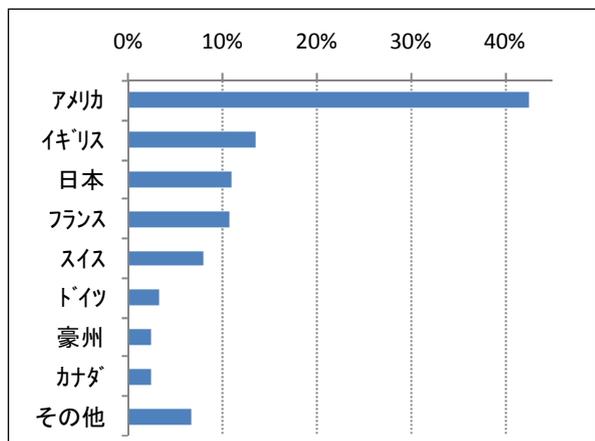
■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

2009 年 8 月末現在

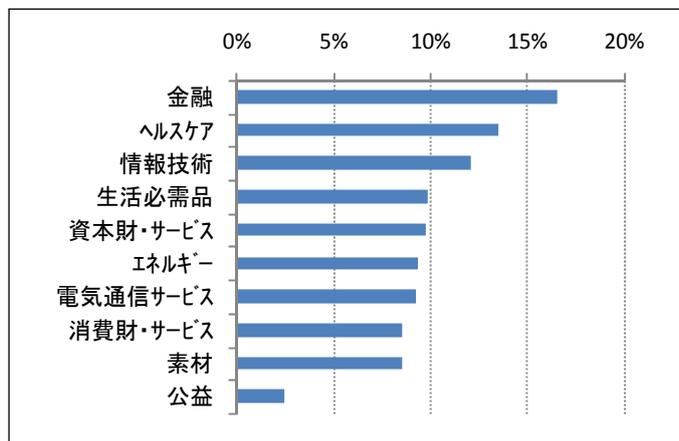
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	Royal Dutch Shell	3.6%	オランダ	エネルギー	石油ガス
2	Roche	3.1%	スイス	ヘルスケア	医薬品大手
3	PepsiCo	2.3%	アメリカ	生活必需品	飲料大手
4	Bouygues	2.2%	フランス	電気通信サービス	通信大手
5	Goldman Sachs	1.8%	アメリカ	金融	世界有数の投資銀行
6	HSBC	1.7%	イギリス	金融	世界有数の金融グループ
7	Celgene	1.6%	アメリカ	ヘルスケア	急成長バイオ
8	Target	1.6%	アメリカ	消費財・サービス	小売チェーン大手
9	Merck	1.4%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品大手
10	Google	1.4%	アメリカ	消費財・サービス	世界最大のネット検索
上位 10 銘柄		20.7%			
その他		77.4%			
キャッシュ		1.9%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

>> ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 日本を含む先進国に幅広く投資。
- ◆ インデックスに対し大きな偏りをとらず、長期間の安定的な超過収益を狙うファンド。
- ◆ 最悪期を脱した金融株の比率を引き上げてきている (08 年前半: 約 22% → 09 年 2 月ボトム: 11% → 現在 17%)。

◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆ 当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
 ◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

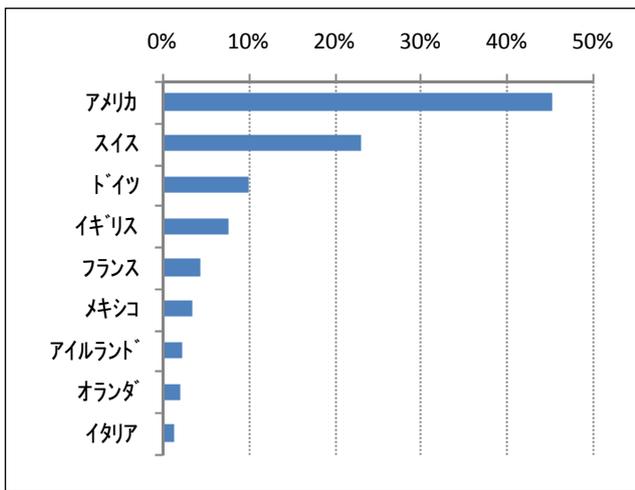
■ ハリスF (ALAMCO ハリス グローバル バリューストックファンド 2007)

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 グループ 2009 年 8 月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	INTEL	6.9%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー
2	HEWLETT PACKARD	4.2%	アメリカ	テクノロジー・ハード機器	コンピューター関連大手
3	JULIUS BAER	4.2%	スイス	各種金融	プライベートバンク
4	FINANCIERE RICHEMON	4.0%	スイス	耐久消費財・アパレル	高級ブランド・ラグジュアリー
5	FRANKLIN RESOURCES	4.0%	アメリカ	各種金融	資産運用(フランクリン テンプルトン)
6	CATERPILLAR	3.9%	アメリカ	資本財	建設機械世界トップ
7	UBS	3.5%	スイス	各種金融	金融大手
8	BANK OF NEW YORK MELLON	3.4%	アメリカ	各種金融	金融大手
9	CARNIVAL	3.4%	アメリカ	消費財・サービス	クルーズ客船
10	ALLIANZ	3.1%	ドイツ	保険	総合保険大手
上位 10 銘柄		40.6%			
その他 30 銘柄		52.0%			
キャッシュ		7.4%			

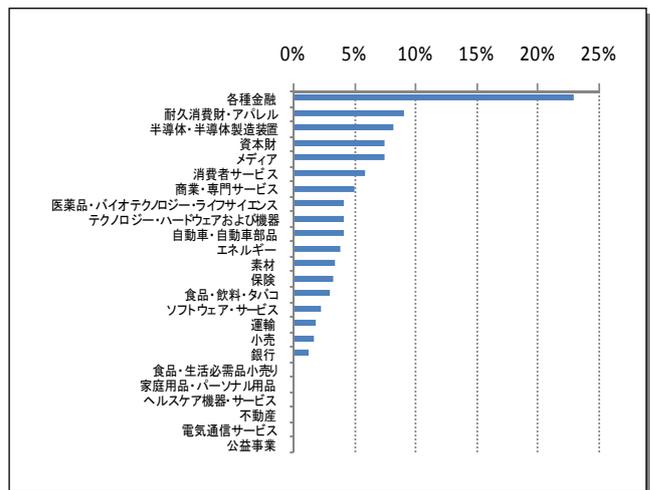
■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)

※2009 年 9 月末現在



業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 割安な 40 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。日本を除くグローバルに投資。
- ◆ 2007 年 7 月のファンド設定以来、「金融」を一貫して 3 割程度組入れ。
- ◆ 「消費財・サービス」(メディア・アパレル・サービス...) など安定成長セクターにも高ウエイト。
- ◆ 最近、割安な資本財(キャタピラーなど)に注力中。その他では大きな変更なし。

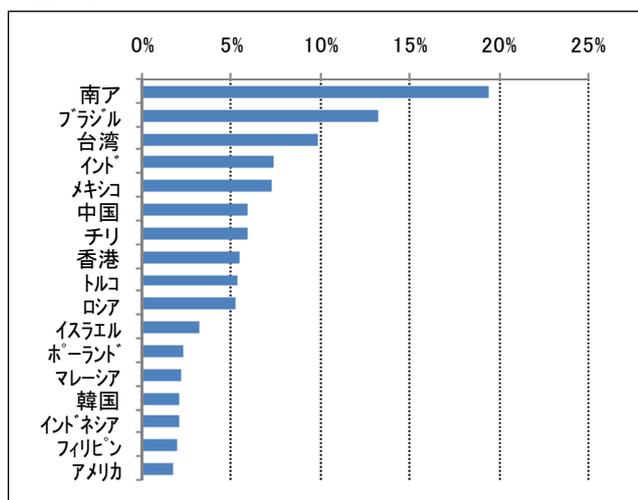
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター 2009 年 9 月末現在

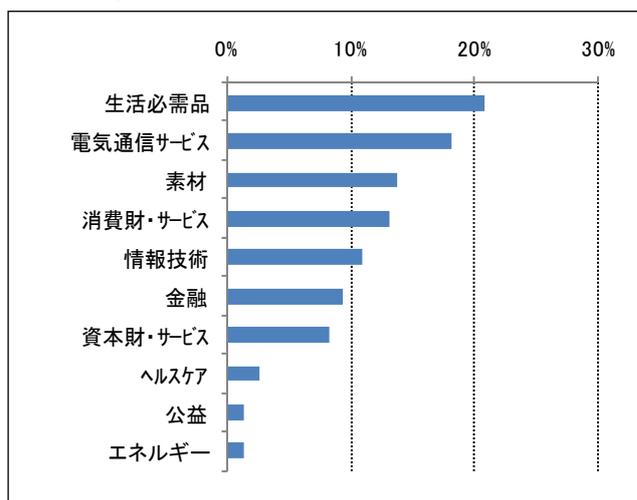
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	5.2%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2	MTN	4.0%	南ア	電気通信サービス	携帯電話
3	MOBILE TELESYSTEMS	3.6%	ロシア	電気通信サービス	携帯電話
4	GOLD FIELDS	3.2%	南ア	素材	金鉱開発
5	ANGLOGOLD ASHANTI	3.2%	南ア	素材	金鉱開発
6	AMDOCS	3.0%	イスラエル	情報技術	ソフトウェア開発・サービス
7	GRUPO TELEV	3.0%	メキシコ	消費財・サービス	メディア
8	TIM PARTICIPACOES	2.9%	ブラジル	電気通信サービス	携帯電話
9	COCA-COLA ICECEK URETIM	2.9%	トルコ	生活必需品	ボトル
10	CHINA LIFE INSURANCE	2.8%	中国	金融	生命保険
	上位 10 銘柄	28.6%			
	その他 31 銘柄	67.1%			
	キャッシュ	4.3%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種：MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター
構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

>> ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆新興国の割安な 50 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。
- ◆財務体質健全、積極的な情報開示、株価割安な企業に選別投資。
- ◆高成長新興国中心のポートフォリオ。
- ◆衣食住・インフラ等生活関連銘柄のウエイトが高い。
- ◆新興国市場の高値警戒感から安定成長ができる情報技術・通信関連などにシフト中。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
 ◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

ユニオンファンド(組入4ファンド トータル)の状況

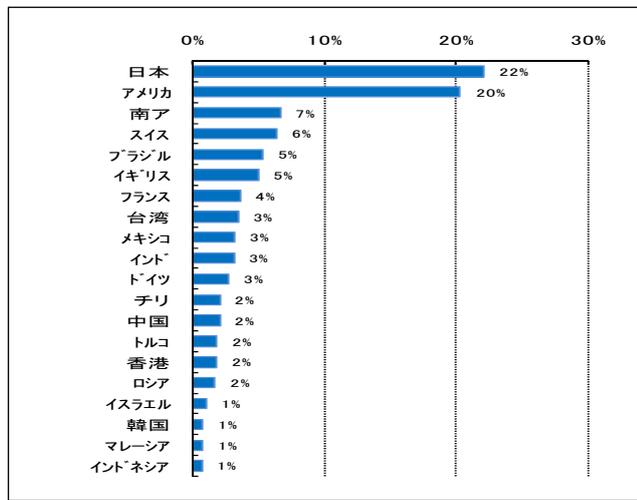
■株式組入上位 20 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

2009 年 8 月末現在

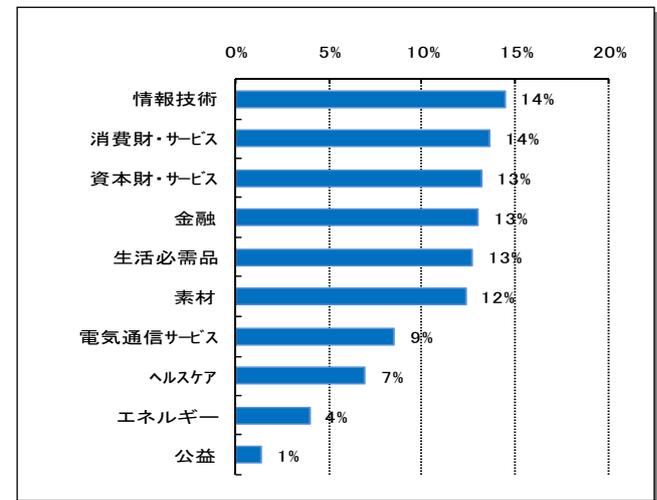
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等	主要組入F
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	1.9%	台湾	情報技術	半導体メーカー	コムジェストF
2	MTN	1.5%	南ア	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
3	JBS	1.5%	ブラジル	生活必需品	食肉加工	コムジェストF
4	INTEL	1.3%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー	ハリスF
5	MOBILE TELESYSTEMS	1.2%	ロシア	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
6	ANGLOGOLD ASHANTI	1.1%	南ア	素材	金鉱開発	コムジェストF
7	GAFISA	1.1%	ブラジル	消費財・サービス	住宅建設	コムジェストF
8	EMPRESAS COPEC	1.0%	チリ	資本財・サービス	石油ガス・農林水産	コムジェストF
9	GOLD FIELDS	1.0%	南ア	素材	金鉱開発	コムジェストF
10	GRUPO TELEV	1.0%	メキシコ	消費財・サービス	メディア	コムジェストF
11	COCA-COLA ICECEK URETIM	1.0%	トルコ	生活必需品	ボトル	コムジェストF
12	Royal Dutch Shell	0.9%	オランダ	エネルギー	石油ガス	キャピタルF
13	Roche	0.8%	スイス	ヘルスケア	医薬品大手	キャピタルF
14	HEWLETT PACKARD	0.8%	アメリカ	テクノロジー・ハード機器	コンピュータ関連大手	ハリスF
15	JULIUS BAER	0.8%	スイス	各種金融	プライベートバンク	ハリスF
16	商船三井	0.8%	日本	資本財・サービス	タンカー・LNG 船で世界一	さわかみF
17	FINANCIERE RICHEMON	0.7%	スイス	耐久消費財・アパレル	高級ブランド・コンクロマリット	ハリスF
18	FRANKLIN RESOURCES	0.7%	アメリカ	各種金融	資産運用(フランクリン テンプルトン)	ハリスF
19	CATERPILLAR	0.7%	アメリカ	資本財	建設機械世界トップ	ハリスF
20	UBS	0.7%	スイス	各種金融	金融大手	ハリスF
	上位 20 銘柄	20.7%	(注)各組入F開示資料に基づくランキング			
	その他銘柄	70.9%				
	キャッシュ	8.4%				

■国別構成比 (上位 20 カ国)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■業種別構成比



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

>> コメント

- ☆組入銘柄数: 約 500、投資国数: 約 30 カ国。
- ☆組入上位 20 銘柄明細: 40 銘柄程度に絞り込んでいる「コムジェストF」「ハリスF」組入銘柄が上位に。
- ☆国別構成比: 日本・アメリカが 2 割程度で 1・2 位。
新興国では南ア・ブラジル・メキシコ・インドなどが上位に。中国は割高感などから低位。
- ☆業種別構成比: 情報技術から素材まで 6 業種が 14~12%の比率。全体的に好バランス。
市況関連のエネルギー・素材が低下し、安定成長が期待できる通信・情報技術の比率が高まってきている。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

株式投資・株式投資信託の活用は精神的なゆとりを生み出す？

ユニオン投信株式会社 取締役
清水 学



おはようございます！ こんにちは！ こんばんは！ ユニオン投信の清水学です。

早速ですが、私は株式投資や株式投資信託の活用は、「資産形成」や「老後生活の資金づくり＝私的年金づくり」の“大きな一つの方法”であると考えています。

「なぜ、“大きな一つの方法”であるか？」については、弊社の過去の月次レポートの『ファンドマネージャー コメント』や『弊社役職員から、みなさまへのメッセージ』を再度お読みいただければ幸いです。私なりの言葉で私の考え方を述べさせていただきます。

機関投資家、個人投資家問わず、**長期投資家**が「株式投資あるいは株式投資信託の活用は、自分も一生懸命に働くがお金にも働いてもらうこと。自分とお金の二人三脚で働くこと。」と言っていることをよく耳にされると思われます。弊社・弊社のお客様・私自身・ユニオンファンドの組入れ4ファンドも**長期投資家**ですが、全く同感・共感です。“お金にも働いてもらうこと”について、もう少し噛み砕くと以下のように言えると思います。

- **株式投資や株式投資信託の活用は、優良と思われる(＝社会に必要とされる、信頼されている)企業や企業群に長期的な視点で投資(＝応援)し、その企業や企業群と共に自らも成長していくこと。**
- **そして、富を生むのは国ではなく「企業」であり、その「企業を支える人」から勇気もらうこと。**

世の中には株式や株式投資信託の他にも、数多くの金融商品が存在します。預貯金、債券、金、不動産などなど両手で数えきれないほどの種類があります。しかしながら、“成長”をキーワードにして単純に考えてみると“成長”する可能性があるのは、株式や株式投資信託のみではないでしょうか？

数ある金融商品の中でも、市場が大きい(＝需要が多い)のは「株式」と「債券」です。

例えば、債券にもいろんな種類がありますが、ここでは「国債」について考えてみます。

「国債」は「国の借金」でありイコール「国民の借金」です。貸し手にとっては、国の財政が破綻しない限り元本と利息は保証されていますが、“成長”はしません。なぜなら、企業や人が成長した結果として国が成長するのであり、国が成長してから企業や人が成長することはないからです。

現在のような不況下においては、国が公的資金注入や財政出動、赤字国債発行などを行いますが、その原資は国が生み出しているのではなく、企業や人が生み出しているのです。いや、生み出しているのではなく、その多くは自分のみならず子どもや孫も含めて借金を背負っているのです。

「国債」等の「債券」による運用を否定するつもりは毛頭ありませんが、“成長”をキーワードにすると、やはり「個人の資産形成、老後生活資金づくり」、「経済活性化(不況時には経済の下支え)」、「生活向上(不況時には生活の下支え)」の王道は長期的視点での株式投資や株式投資信託の活用だと考えます。

一方で、ほとんどの企業は栄枯盛衰を繰り返しています。なかには創業以来、連続して増収増益を続けている企業もありますが、極少数に過ぎません。従って、自分が勤めている企業も好調な時であれば低調な時もあります。そして、残念ながら低迷期を抜け出せず、一部事業を売却したり最悪は倒産してしまう

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

企業もあります。自分の勤めている企業が低調であったり、低迷している時は、どうしても不安がいつぱいとなり、今の仕事にも集中できず、社内も家庭内も暗くなりがちです。

そんな時に、複数の別の企業の株式を持っていたり、複数の企業の株式を組み合わせた株式投資信託を持っていると、どうでしょう？

私も株式投資と株式投資信託を始めた時は、どうしても毎日の株価や基準価額のアップダウンに気を取られました。しかし、長くやっていると不思議と毎日の株価や基準価額の変動は全く気にならず、むしろ、自分の勤めている企業が低調な時は、他の複数の企業の株式や株式投資信託を持っていることによって精神的なゆとりが発生すると共に、それらの企業の動向や事業、各種活動を観る中で自企業や自分の仕事を見つめ直し、低迷期脱出・再成長に向けた気力が湧いてきます。「不安が全くなくなる」と言えばウソになりますが、不安を受け止め、「では自分は、自分の勤める企業は今何をすべきか！」を考えるようになり、前向きな気持ちと行動に繋がっていきます。

このように、**ドッシリ・ゆったり**した株式投資や株式投資信託の活用は、「資産形成」や「老後生活の資金づくり＝私的年金づくり」の“大きな一つの方法”だけでなく、(もちろん人それぞれの考え方にもよりますが)意外にも“精神的なゆとり”や“新たな活力・気力”、“前向きな将来に向けた行動”という効用を生み出すと実感しています。

平成 21 年 10 月 8 日記

『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。 －

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの方式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」などがあります。

『ユニオンファンド』の手数料

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手数料等および税金」をご覧ください。 －

【申 込 手 数 料】 … お申込みにあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

【換 金 手 数 料】 … ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

【信 託 報 酬】 … 総資産総額に年 0.84% (税抜き 年 0.8%) の率を乗じて得た額です。

毎日、当ファンドの投資信託財産より控除されます。

[実質的な信託報酬※ 信託財産の純資産総額に対して年 1.9%±0.3% (概算)]

※『ユニオンファンド』は他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。

【信託財産留保金】 … 信託財産留保金はありません。

【その他の費用】 … 『ユニオンファンド』に組み入れるファンドを売買する際に発生する売買手数料およびこれにかかる消費税に相当する額は投資信託財産より控除されます。

※実際の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

◆ 業務管理部よりお知らせ ◆

◆ お取引残高報告書の見方について ◆

10月上旬に作成基準日時点でのお預り残高口数とお取引履歴をご報告する「お取引残高報告書」をご通知申し上げます（7月～9月中にお取引があったお客様のみ）。
ご参考までに、お取引残高報告書の見方について掲載させていただきます。

1. お取引残高報告書の上段「お取引残高(作成基準日現在で受渡日が到来している取引)」の見方

お取引残高(作成基準日現在で受け渡しが出来ているお取引)

種類	銘柄 口座区分	数量	取得単価(円) (単位口あたり)		評価単価(円) (単位口あたり)		評価金額(円)	
金銭	お預り金							
投資信託	ユニオンファンド 特定							
	ユニオンファンド 一般							
評価金額合計								

【「金銭」について】

ユニオンファンドの約定・受け渡しされる前の「お預り金」が表示されます。

【「投資信託」について】

お客様のユニオンファンド残高口数を各口座区分（特定・一般）ごとに「数量」（口）で表示し、「取得単価（円）」でお客様の平均取得単価を表示しております。

「評価単価」とは作成基準日（取引残高報告書の書類右上に表示）現在の基準価額のこと、これを基にお客様の「評価金額」を算出しています。

（「評価金額」の計算は「数量」×「評価単価」÷10,000で表します。）

2. お取引残高報告書の下段「お取引明細(明細記載期間内に受渡日が到来したお取引)」の見方

作成期間内にお取引された明細が表示されます。

○ ファンドの購入については「取引区分」の表示が「入金」「買付」で表示されます。

○ 解約の「取引区分」は「解約」「出金」で表示されます。また、「特定口座 源泉徴収あり」を利用のお客様につきましては、お取引によって「譲渡益税源泉徴収」「譲渡益税還付金」が表示されます。

◆ 定期定額購入について ◆

毎月5日(休日の場合は翌営業日)にご指定いただきました金融機関口座より自動引落としされ、8営業日後の基準価額にて購入いたします。

なお、「新規申込み」「各種変更」には、締切日がございます。締切日を過ぎて届出書類が弊社へ到着した場合には、ご希望される月からは反映されませんのでご注意ください。

定期定額購入スケジュール

引落開始月	新規申込み 引落口座変更 締切日	金額変更 引落中止 締切日	ご指定の金融機関 口座からの引落日	ファンドご購入日 (約定日)
11月	締切りました	10月20日(火)	11月5日(木)	11月17日(火)
12月	11月2日(月)	11月19日(木)	12月7日(月)	12月17日(木)
平成22年1月	12月2日(水)	12月16日(水)	1月5日(火)	1月18日(月)

ご不明な点などがありましたら、弊社業務管理部(TEL:0263-38-0725)までご連絡ください。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。